



GCA

2020年12月期 第1四半期 決算説明資料

2020年5月13日



ディスクレマー

本資料には、当社の事業及び業界動向についての当社自身による現時点での予測、仮定、推定に基づく将来の展望に関する記述が含まれています。これらの将来の展望に関する記述には、さまざまなリスクと不確実性が伴います。またこれらの記述には将来の予測と計画への言及、戦略の特定、経営成績および財政状態の予測を含み、その他の将来の見通しに関する情報も記載しております。既知および未知のリスク、不確実性、およびその他の要因により、実際の結果が将来の展望において見込まれた予測と大きく異なる可能性があります。潜在的なリスクと不確実性には、当社の、顧客を誘引し維持し続ける能力、事業において利益を計上する能力、コンピューターと電子システムを拡張しシステム障害を回避するためにこれらを維持し続ける能力、および株主との関係を維持する能力などを含みますが、これに限られるものではありません。本資料に掲載されている財務情報は、必ずしも一般に公正妥当と認められた会計基準に準拠しているものではありません。本資料における将来の展望に関する記述は、本資料公表日現在において入手可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる記述も更新し変更するものではありません。また、掲載された情報の内容の正確性、有用性、また適切性等について、当社は一切保証するものではなく、本資料に記載された内容は、事前の通知なくして変更されることがあります。

1

GCAについて

400+

コーポレートファイナンス
プロフェッショナル

80+

マネージング
ディレクター

25

拠点

事業の概要

北欧ステラ社買収後のグローバル拠点



欧州

バーミンガム
フランクフルト
ローザンヌ
リーズ
ロンドン
マンチェスター
ミラノ
ミュンヘン
パリ
ストックホルム
テルアビブ
チューリヒ

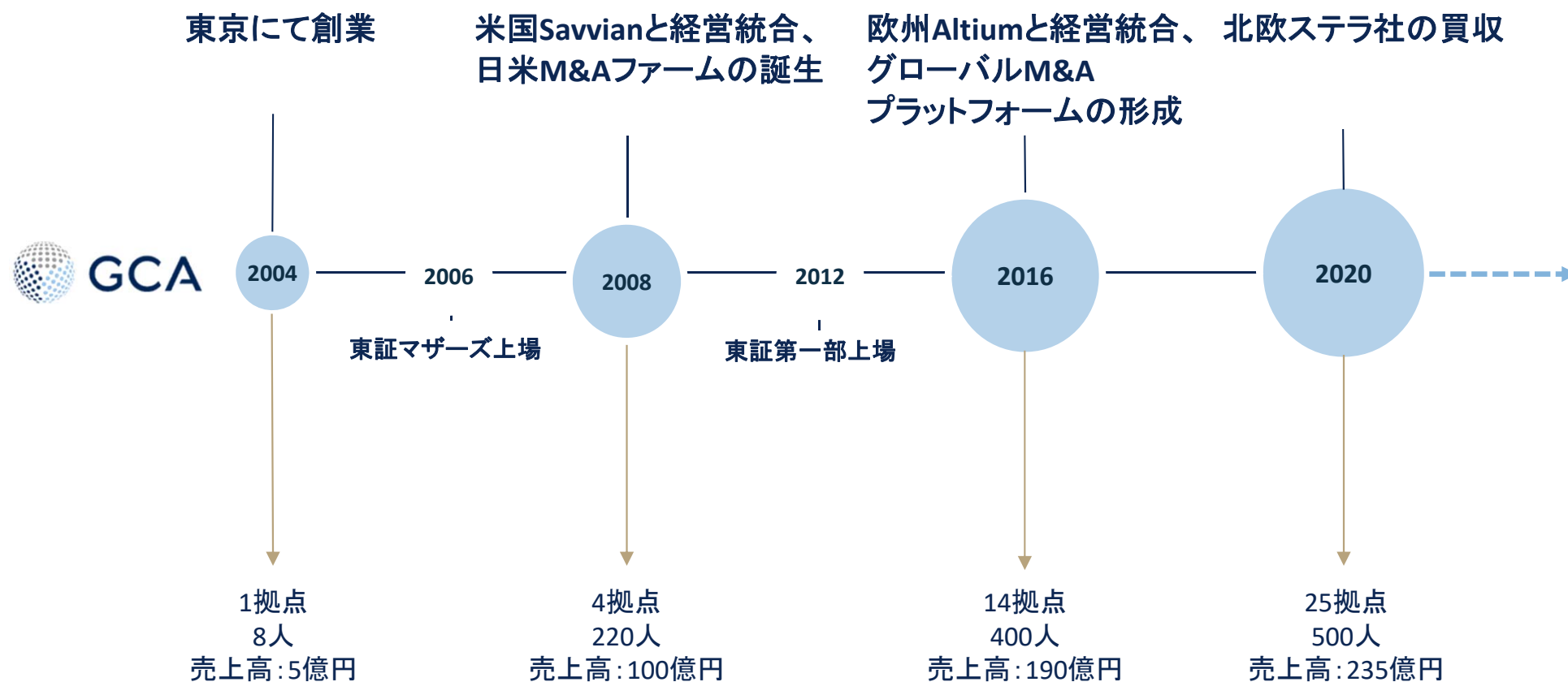
日本/アジア

福岡
ホーチミン
京都
ムンバイ
名古屋
ニューデリー
大阪
上海
シンガポール
台北
東京

北米

ニューヨーク
サンフランシスコ

着実な成長の軌跡



GCAの強み

M&A及び資本市場における助言サービスを提供する独立系グローバル投資銀行

1 日本/アジア、米国、欧州の3つのダイナミックな市場におけるグローバルビジネス

2 成長と収益性における一貫した実績

3 テクノロジーを活用する経済における“Thought Leader”

4 事業承継ビジネスを含む、新たな成長分野での実績



CREATING GROWTH
AND LONG-TERM
SHAREHOLDER
VALUE

5 利害関係から独立し、常に中立的な立場でのアドバイス

6 クライアントとの強固なリレーションシップ

7 従業員・役職員が相当数の株式を保有（低い離職率）

8 一貫した株主還元

2

2020年第1四半期のハイライト

2020年第1四半期の財務および業績ハイライト

¥3.35 bn

2020 Q1 グループ売上高

32件 完了案件
前年同期比 -6%

¥0.15 bn

2020 Q1 営業利益



2020 Q1 グループ売上高は前年同期比25%減

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的な拡がりにより、案件が遅延ないしは一時的に留保される等、全世界でM&A活動が減速

受注パイプラインは引き続き高いレベルを維持 (前年同期比3%以下の減少) しており、市場の回復と共に案件が再び始動、クローズすることが想定される

顧客の活動は減速するも、引き続き案件機会を見出し、新規案件を獲得中



比較的小規模案件は順調に完了の傾向

完了案件数の減少率は収益のそれよりも低く、多額の借入 (デットファイナンス) を必要としないような比較的小規模の案件への影響は限定的であることを示唆



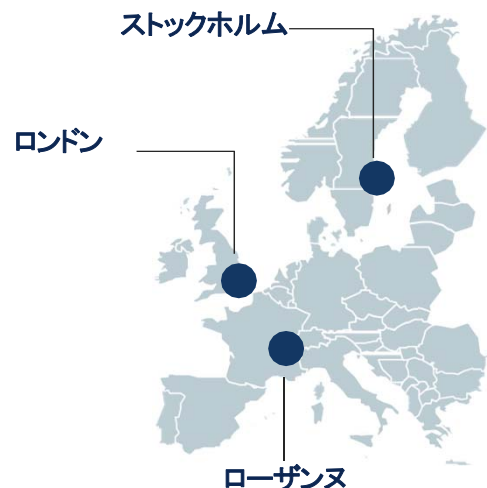
コスト削減への取り組み

市場の不確実性に対応するため、グループ全体のコスト削減策を実施、Q2から効果が期待される

STELLA EOC社買収の完了

北ヨーロッパに強いプレゼンスを確立

Stella EOC について



- 北欧を中心にメディアおよびテクノロジーに強みをもつブティック投資銀行
- 2017年にStellaとEOCの統合により設立
- M&Aやデットアドバイザーを含むフィナンシャルアドバイザー全般の専門知識と経験を持つ
- テクノロジーおよびメディア起業家、フィナンシャルスポンサー、大手企業等にアドバイスを提供

案件完了の経緯

- 本買収は2020年4月6日にクローズ
- 当社は、Stella EOCの株主に対し、買収対価として4,375,000株を発行
- このうち、275,000株は「アーンアウト」株式とみなされ、2020年12月31日までの9か月間および2021年12月31日までの21か月間のパフォーマンス基準を適用。パフォーマンス基準が満たされない場合、それらの株式は無効となる
- 基本取得株式数4.1百万株（アーンアウト株式を除く）および4月3日（完了日前営業日）の終値をベースに試算すると、買収価額は21.5億円となる
- **Stella EOCはGCA Altium Nordicsに名称変更。GCAグループに参画して以降、既に2件のM&Aアドバイザー案件を成約**

3

2020年第1四半期 業績ハイライト

2020年第1四半期の業績

アドバイザー売上高は新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少

(百万円)	Non-GAAP		IFRS	
	FY2019 Q1 ⁽¹⁾	FY2020 Q1 ⁽²⁾	調整 ⁽³⁾	FY2020 Q1 ⁽²⁾
売上高				
アドバイザー	4,323	3,038	8	3,046
アセットマネジメント	150	309		309
売上高合計	4,474	3,346	8	3,354
費用				
人件費	2,954	2,075	6	2,081
賃料・減価償却費	324	339		339
その他	837	781	8	789
費用合計⁽⁴⁾	4,115	3,195	13	3,207
営業利益	359	152	(6)	147
	8.0%	4.5%		
純利益	173	(26)	(6)	(32)
	3.8%	(0.8)%		
1株当たり利益⁽⁵⁾ (円)	4.57	n/a		n/a

注: (1) 2019年Q1平均為替レート: ¥110.21/USD および ¥143.69/GBP

(2) 2020年Q1平均為替レート: ¥108.97/USD および ¥139.66/GBP

(3) 欧州アルティウムとの経営統合時に発行した新株予約権をNon-GAAPでは買収関連費用として除外していますが、IFRSでは発行時の公正価値(FV)で計上しております。協業先との報酬配分についてはNon-GAAP上、売上および費用双方から除外しております。

(4) 詳細は「Appendix: 費用の明細」を参照ください

(5) 純利益 ÷ 期中平均発行済株式総数 (自己株式を除く)



2020年第1四半期末のバランスシート

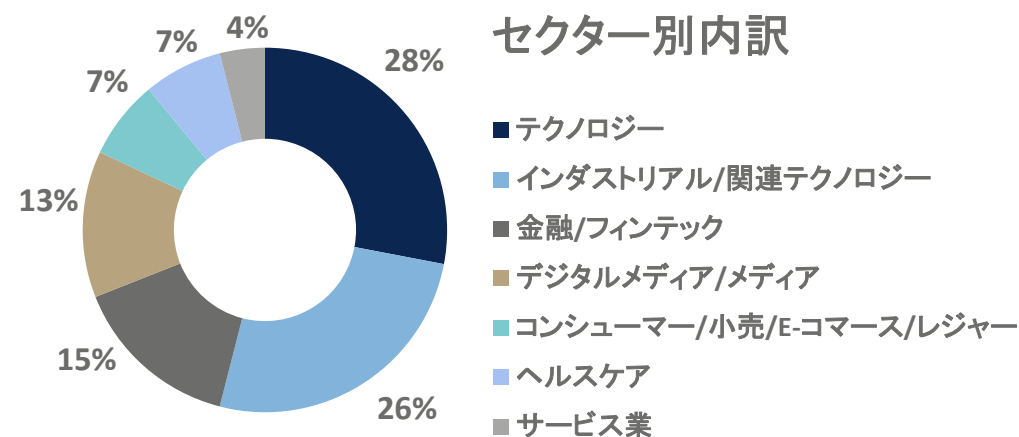
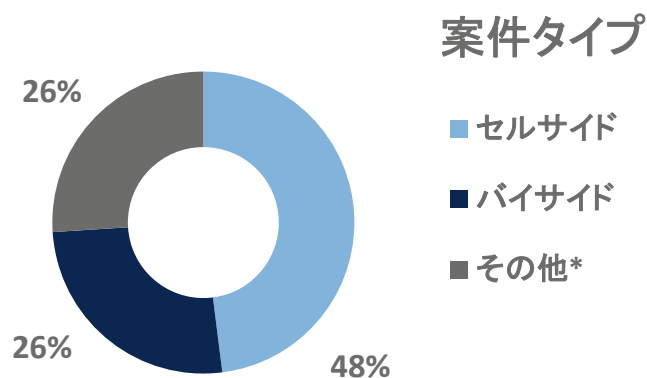
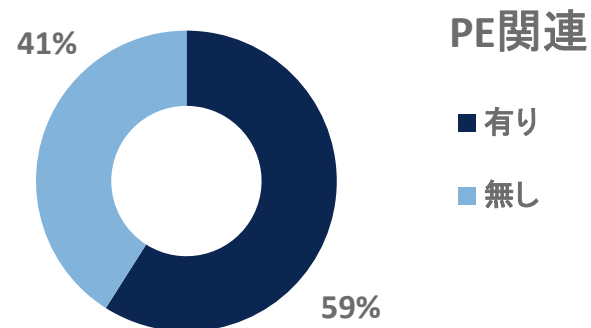
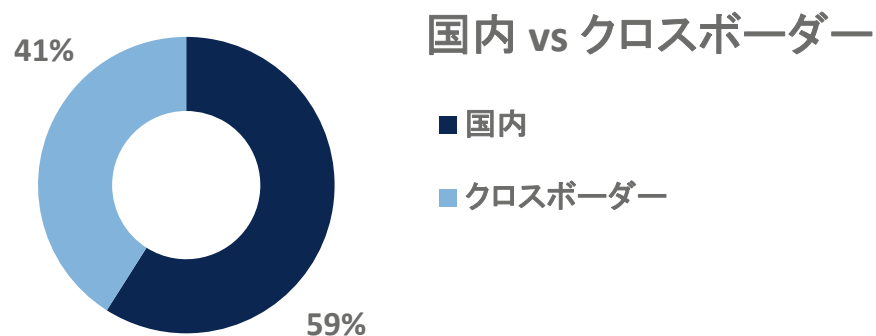
健全なバランスシート、自己資本比率は約67%

	(百万円)	
科目	2019/12 ⁽¹⁾	2020/03 ⁽²⁾
資産		
預金及び現金同等物	14,645	9,973
営業債権及びその他の債権	2,983	2,219
その他	1,502	2,509
流動資産 計	19,130	14,703
有形固定資産	4,599	4,355
のれん及び無形資産	9,785	9,036
その他	3,162	2,253
非流動資産 計	17,546	15,644
資産合計	36,677	30,347
負債		
未払法人所得税	970	216
リース負債	3,864	3,745
その他	9,804	5,896
負債合計	14,638	9,857
資本		
株主資本	14,764	14,846
利益剰余金	5,581	4,862
その他	1,692	781
資本合計	22,038	20,490
負債・資本合計	36,677	30,347

注: (1) 2019年12月31日の為替レート: ¥109.55/USD および ¥143.48/GBP
(2) 2020年3月31日の為替レート: ¥108.83/USD および ¥133.46/GBP

2020年第1四半期の案件概要

案件タイプ、セクター、クロスボーダー、PE関連等、バランスの取れた案件構成



4

事業アップデート

現在のビジネス環境

新型コロナウイルス感染症の影響に関する状況

現在の ビジネス環境 について

第1四半期の 業績

- 新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的規模の感染拡大は、事業活動や人々の日常生活に対する様々な制限を要因とし、前例のない景気後退を引き起こしており、クライアントのM&A活動に悪影響を及ぼしている
 - ✓ その結果、2月中旬頃から、多くの案件が遅延または保留となった
- 現在、M&A案件における売り手、買い手共に、経済状況がより安定するまで「様子見」の姿勢を取っている状況
 - ✓ 戦略的な買い手(事業会社等)は、既存事業のオペレーションと財務管理に集中することを優先し、投資よりも現金留保の傾向
 - ✓ 売り手は現在の低いバリュエーションでの売却に消極的
 - ✓ フィナンシャルバイヤー(投資ファンド等)は、既存ポートフォリオ企業の管理に注力
 - ✓ 商業銀行は事業救済のためのローン活動を優先しており、レバレッジドファイナンス市場が影響を受けている
- 欧米の案件パイプラインが最も早く影響を受けた。日本は少し遅れて影響を受け、第2四半期以降、活動が鈍化すると予想される
- 第1四半期の新規獲得案件(予想手数料収益ベース)は前年比11%減、欧米は20%超の減少に対して日本は20%増を記録

GCAの 事業継続状況

対応策

GCAの対応と対策

新型コロナウイルス感染症の影響に関する状況

- 現在、グループ従業員の約80%が在宅勤務*
- 安全なリモートアクセスやビデオ会議など、在宅勤務をサポートするテクノロジーは導入、実装済み
- クライアントの多くは同様の状況であり、クライアントに対しリモートで効果的なサービスを提供できている
- 顧客とのコミュニケーションを活発に継続： 日本では、4月の顧客面談(ビデオ/電話会議を含む)件数が前年比10%以上増加
- コスト構造の徹底的な見直しを実施。一般経費削減、特定地域での自発的および一時的な給与削減などのコスト削減策を開始。今後継続的に必要に応じた対策を講じる予定
- 世界的な景気低迷の長期化に備えて事業を強化するため、GCAグループは約43億円(約US\$40m)の借入資金を確保
 - ✓ これには、銀行借入、政府支援の融資枠および未実行の約20億円(約US\$18m)のコミットメントラインが含まれる
 - ✓ 結果、当グループは、仮に収益ゼロを仮定した場合においても、2021年度までの事業コストをカバーする十分なキャッシュ(未実行のコミットメントを含む)を有する

*中国と台湾、欧州のいくつかのオフィスでは通常通りビジネスが再開

機会と展望

新型コロナウイルス感染症の影響に関する状況

今後の展望

- 経済及びM&A市場の後退が長期化するリスクを慎重に見極める一方、現在の環境に対応したビジネス機会を積極的に追求する
 - ✓ 健全で手元資金が豊富な企業/投資家は、現在の市場価格でM&Aを実行できる好機と考える可能性が大
 - ✓ 救済やリストラを目的としたM&Aが増えることが予想される中、GCAは日本において豊富な再生案件アドバイザリー実績を有する
 - ✓ 事業承継ニーズの加速も予想される
 - ✓ GCAが強みを有するテクノロジーセクターは、歴史的に景気後退時においても活発なM&Aが行われてきた
 - ✓ 欧州のデットアドバイザリー案件が増加傾向
 - ✓ 市場が正常に機能し始めると、待機M&A需要で案件は増加する
 - ✓ ステラ社買収により北欧のプラットフォームを活用
 - ✓ 欧州では強いパフォーマンスを見せているeコマースセクターのマーケットリーダー
 - ✓ クロスボーダー案件での強み
 - ✓ 日本企業が欧米企業に投資をする絶好の機会
- また、景況感の悪化は、他企業から優秀な人材を採用するなど、まとまった人材の獲得や地域的拡大の機会となると考えている

業績予想

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響による不確実性により、連結業績予想を「未定」といたします。弊社は株主および投資家に対する業績予想開示の重要性を十分に認識しており、今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします



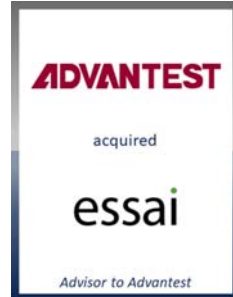
付属資料

2020 Q1 主要案件

厳しい環境の中も実績を確保



- Clubhouse Golfはドイツ外のゴルフ用品販売におけるヨーロッパ最大のEC企業
- all4golfはAfinumのポートフォリオ企業



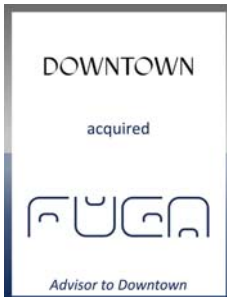
- 半導体業界向け自動テスト装置大手による、米国半導体テストスペースサプライヤーEssaiの買収
- アドバンテストへの4件目のM&A案件



- Auction Technology Groupは、オンラインオークションのグローバルマーケットプレイス大手、ECI Partnersのポートフォリオ企業



- 国内医薬品製造受託機関(CMO)大手武州製薬子会社で、製剤開発(CMC)や治験薬製造を受託するスペラファーマ(前武田製薬のスピンオフ子会社)の医薬品原料商社イワキへの売却



- グローバル音楽会社Downtown Music Holdingsの子会社によるオランダB2B音楽技術/サービス会社FUGAの買収
- クロスボーダーのデジタルメディア案件



- EISは、大手保険会社のテクノロジー化をサポートする保険ソフトウェア会社
- 過去18か月にGCAがアドバイスした13番目のInsurTech案件



- GAIN Capital HoldingsによるINTL FCStoneへのオールキャッシュ売却案件
- GAIN株主は1株あたり6ドルを受領



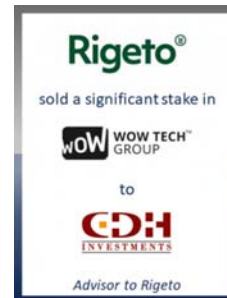
- 三井物産(TSE: 8031)による総合メディカルホールディングス(SOGO MEDICAL HOLDINGS)株式のポラリスキャピタルへの公開買い付けによる売却



- 日本の大手給湯器メーカーノーリツ(TSE: 5943)によるベトナムの大手家電ブランドKangarooの44%株式取得
- 東南アジアにおける製品ラインとライセンスを拡大



- Vossloh-Schwabeブランドで欧州全域に展開する大手LED/照明ソリューションプロバイダーPanasonic Lighting Europe GmbHのFidelium Partnersへの売却



- 健康とウェルネスのプレミアムブランドWOW TechによるシンガポールCDH Investmentsへの売却



- Screening Eagle Technologiesは、資産やインフラストラクチャの検査用センサー、ソフトウェア、データ等をつなぐクラウドベーステクノロジープラットフォーム

売上高の四半期推移

(百万円)



注: 当社のビジネスにおいては四半期売上の変動が大きい為、経営上四半期売上よりも年度売上をより重視しております。

OTHER INFORMATION

(百万円)	2019				FY2019	2020				FY2020
	Q1	Q2	Q3	Q4	合計	Q1	Q2	Q3	Q4	合計
売上高										
アドバイザー	4,323	4,681	6,001	7,732	22,737	3,038				3,038
アセットマネジメント	151	156	164	315	786	309				309
合計	4,474	4,837	6,165	8,048	23,524	3,346				3,346
アドバイザー成約案件数										
合計	34	34	42	55	165	32				32
バンカー数										
合計	297	306	307	325	325	338				338

費用の明細

(百万円)	Non-GAAP		差異	%	IFRS	
	FY2019 Q1 ⁽¹⁾	FY2020 Q1 ⁽²⁾			調整 ⁽³⁾	FY2020 Q1 ⁽²⁾
費用						
人件費	2,954	2,075	(879)	(29.7)%	6	2,081
賃料・減価償却費	324	339	15	4.6 %	-	339
支払手数料	127	163	36	28.3 %	-	163
旅費・交際費	187	113	(74)	(39.6) %	-	113
情報管理費	105	144	39	37.1 %	-	144
その他	418	361	(57)	(13.6) %	8	369
合計	4,115	3,195	(920)	(22.4)%	13	3,207

注) (1) 2018年度平均為替レート: ¥110.44/USD および ¥147.48/GBP

(2) 2019年度平均為替レート: ¥109.06/USD および ¥139.27/GBP

(3) 欧州アルティウムとの経営統合時に発行した新株予約権をNon-GAAPでは買収関連費用として除外していますが、IFRSでは発行時の公正価値(FV)で計上しております。協業先との報酬配分についてはNon-GAAP上、売上および費用双方から除外しております。

コーポレートガバナンス

定時株主総会で承認された取締役会メンバー

取締役



代表取締役
渡辺 章博



取締役
トッド・J.
カーター



取締役
ジェフェリー・D.
バルドウィン



取締役
アレクサンダー・
M・グルンワルド



取締役
フィル・アダムス



取締役
サツシャ・ファイファー



取締役
野々宮 律子



取締役
ジョン・F
ランブロス



取締役
井田 明一

社外取締役

監査等委員会



常勤社外取締役
岩崎 二郎



社外取締役
米 正剛



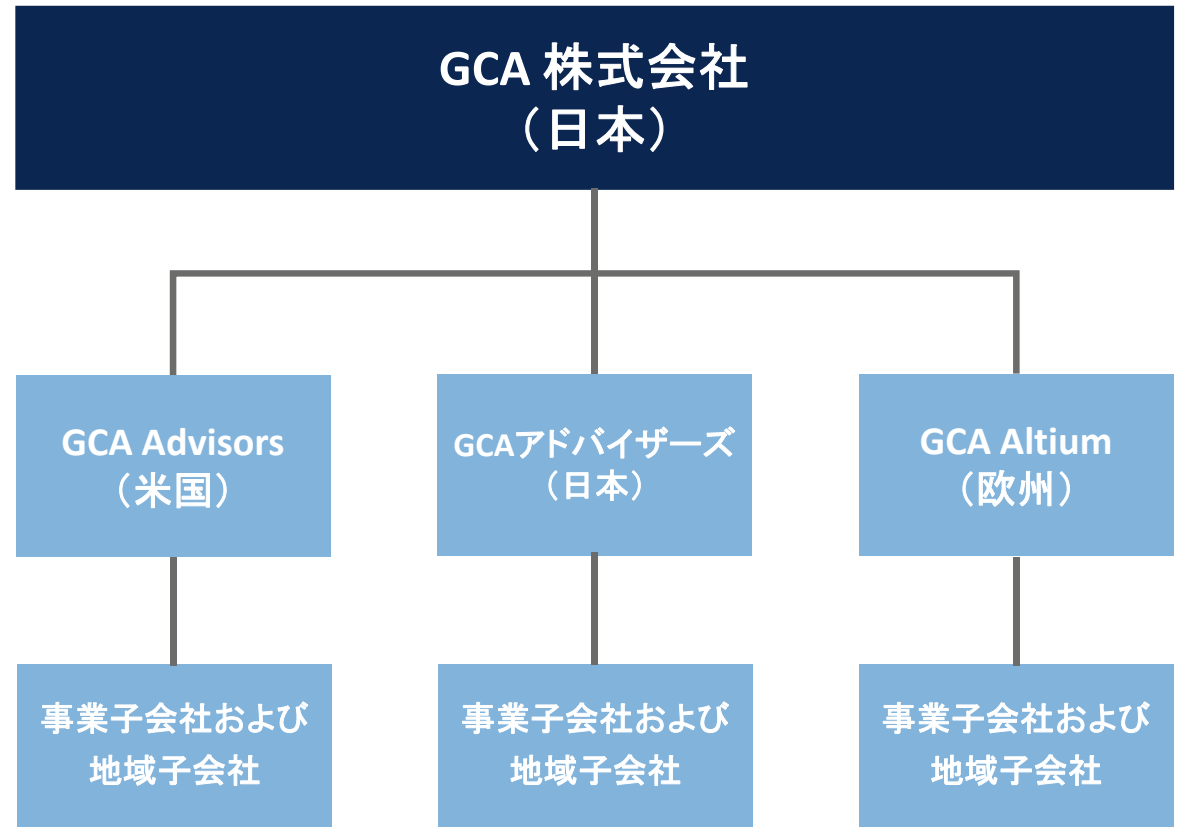
社外取締役
松嶋 宏



社外取締役
アンドレアス・R・
キルヒシュレイガー

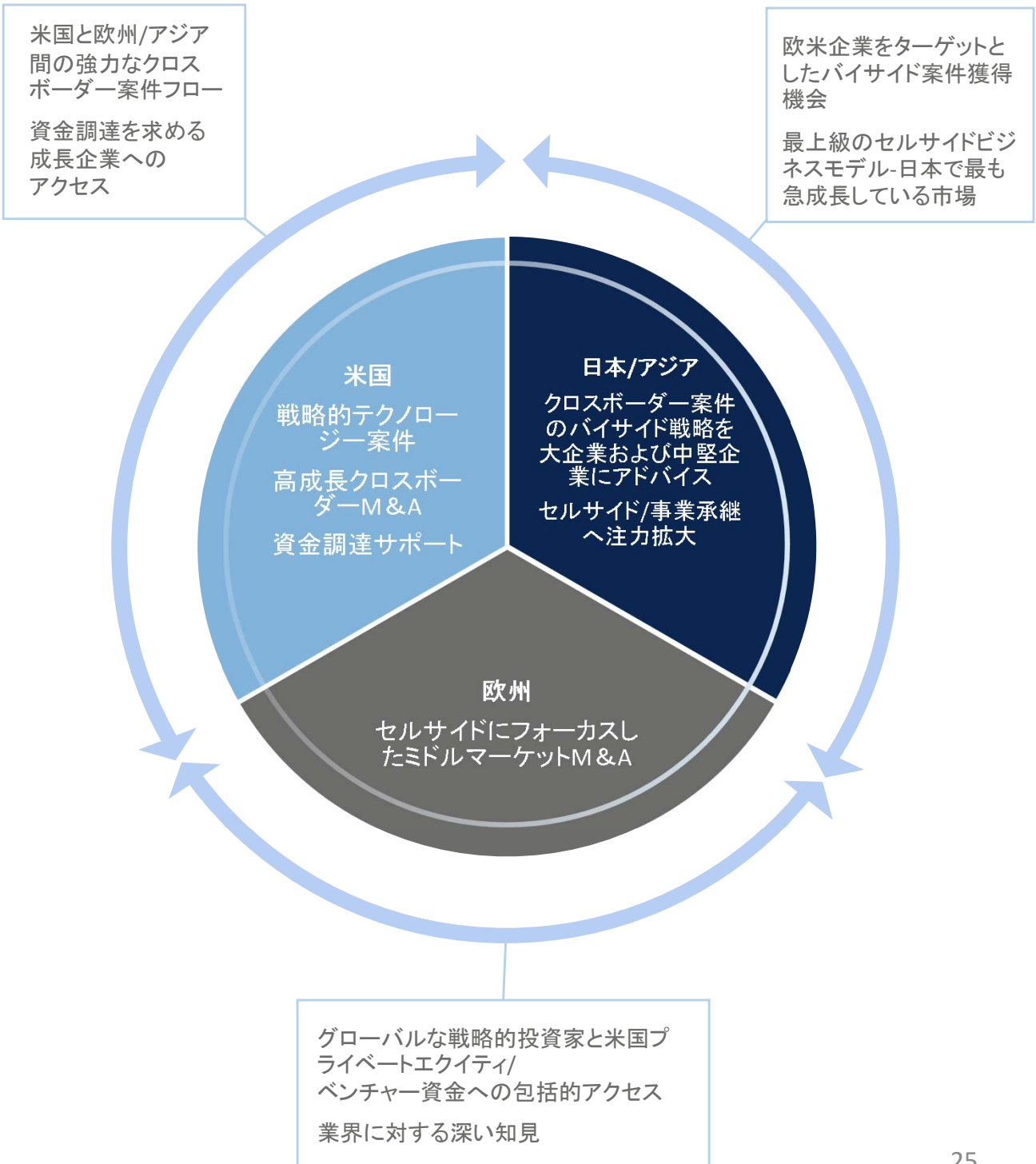
グループ構成

GCA株式会社をグループの持株会社として、傘下に日米欧の3つの主要地域事業が位置するシンプルなグローバル組織構造



コアビジネスモデル

強力なシナジーを備えた統合
グローバルプラットフォーム



ウェブサイト : <https://www.gcaglobal.co.jp/ir-en/who-we-are-en/>

